

41 名護親方と 具志頭親方（八）

牧志と恩河という名前の人がいるわけですよ。二人とも若いが、和学者ですよ。和学者で、非常に頭の切れるやつ。まだまだ、三十前後の若い人ですよ。将来の沖縄を担う偉い人ですからね。意見が合わないわけです。向こうはシナの学者であつて、ここは日本の学者であるわけです。この二人、生かしておいたら、私はもうひどい目に合うから、これ切つて捨てなければいけないと。

で、名護の聖人は那覇の久米村の出身だから、那覇に行つておつたらしい。その話を聞いたもんだからです、ね、駆けつけて、首里に上つた名護の聖人は、

「この人を殺したら沖縄はもう、後世に役立つ人はいなくなつて、大変なことになるんだから、殺してはいかない」と言つて。ほで、クワン浜（浦添市小湾）まで行つてですね、向こうに死刑場ですよ、クワン浜つていったら。今はアメリカの軍用地になつて、全部埋

立地になつてなつとるんです。向こうで死刑にするもんだから、首里城から旗を振つた場合は切りなさいという命令だった。二人は引つ張られていつとるですよ。

名護の聖人は、もう一秒でも一分でも早く行つて、死刑させていかないと。駆け足でいつとるけれども、待て待て、待つて下さいという意味で手を振つてるですよ。旗を持つておつてね。だが、名護の親方は旗を振つたらしいですよ、ほたら向こうは切つてしまつておるんです。ほんで、あの、牧志と恩河という人がです、切られる前に、

「あなたは遺言はないか」と、聞いとるわけですよ。

そしたら、この牧志という人がですね、

「アカギ アカムサガ ハベルナティトウビバ マキシウンガヌ イニントウムイ」とこういう歌を作つたんです。「アカギアカムサ」が「ハベルナティトウビバ」と。牧志と恩河の因縁であるということを知りなさいと、歌を残してですね、切られてしまつたと。

本当にこの人たちは、若い時分に、沖繩の後を担う人たちだった。目の上のたんこぶだから、切らさないと私が痛い目に合うということで。

王様に進言しておるわけだから。この二人を残したらね、まあ、嘘を王様に申し上げておるわけさ。

「この二人をこの世に残したら、王様に謀反を起こすから」と、嘘を申し上げておるわけです。ほいで、王様はわかつておる。王様は。王様、何と歌を歌つたかというと、

「ワガミチリンチル、ユスヌイヤシユル、ムリスルナウチユ、ナサキビカジ」とこういう歌を具志頭の親方に聞かしたんです。日本でもこういうことありますね。「我が身をつねつて人の痛さを知れ」と。あれと似たような歌ですね。

こういう歌を王様は具志頭の裁判に歌つてやつてゐるんです。しかしもう、死刑は済んでしまつておるから、後悔している。王様は非常に頭はいいし、とつさに歌を詠んでおるんです。

字武富 長嶺和男